

## USBメモリの付属ソフトについて

データコンテンツガード

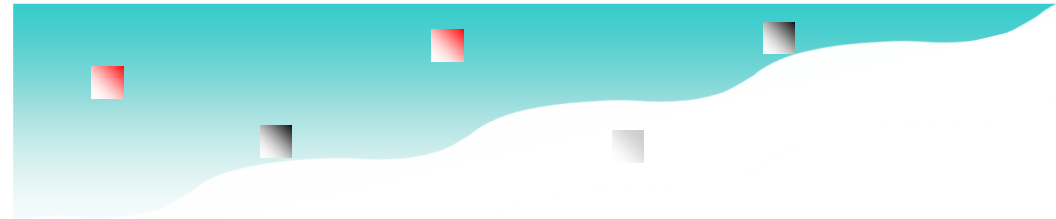
ハイパーコンテンツガード

ハイパープラス

※製品によって含まれていない付属ソフトがあります。

※各付属ソフトの詳しい説明はPDFリファレンスマニュアルをご参照下さい。





目次

Data Contents Guard DC  
Hyper Contents Guard HC  
Hyper Plus HP

項目	ソフト名称／呼び方	ページ	DC	HC	HP
諸問題の解決 USB内蔵の専用アプリの利用例		3-4			
内蔵ビューワーソフト	ClickView クリックビュー	5	○	○	○
管理ソフト	UsbManage USBマネージ	6	○	○	○
自動起動／制限アカウントでの利用	UsbQuickStart	7	○	○	○
解除コード設定／コピーガード解除	UsbQuickStart_admin	8			○
保護領域から非保護領域への切り替え	保護→非保護 UsbBack USB/バック	9	○	○	○
USBの安全な取り外し	Usb安全な取り外し/UsbRemove	10	○	○	○
ユーザーパスワード変更	UsbPw	11	○	○	○
コンテンツリセット	保護領域の出荷時復元 UsbReset	12		○	○
利用者簡易バックアップ	保護領域のバックアップ UsbBackup	13		○	○
一時的にファイルを隠す	USBステルス UsbStealth	14			○
バックアップ・管理ソフトのダウンロード	USB保守ソフト UsbSetting	15	○	○	○
ランチャーソフト	ランチャー launcher.exe	16-18		○	○

使わないツール  
使わないツールは削除して下さい。全てのファイルはダウンロード可能です。バージョンアップ用の更新ソフトに全てのファイルが保存されています。

各製品の保護領域のTOOLフォルダにあります。  
製品によっては付属されていないソフトがあります。  
ご利用されているバージョンによって付属されていない場合があります。  
ランチャーソフトの最新版はダウンロードしてご利用下さい。（解説ページ参照）

UsbReset/UsbBackupは利用者または出荷前にバックアップを行っている必要があります。  
簡易的なバックアップで設定情報などはバックアップされません。USBメモリ内にバックアップが作られますので空き容量

破損に備えてバックアップを行う場合はUsbSettingのイメージバックアップ機能で提供しています。イメージバックアップは設定情報を含めてすべての情報をバックアップします。最終的に圧縮されますが一時的にUSBと同じ容量の作業エリアが必要です。

※コピーガードUSBの特性で他のソフトでバックアップはできません。



## 諸問題の解決 USB内臓の専用アプリの利用例

USBにアクセスするソフトの問題

- ソフトがセットアップされていない
- 安全な取り外しが出来なくなる
- パソコンによって操作が統一できない
- 互換性ソフト利用で表示や操作が違う

付属ソフトで解決

操作性の向上や問題の解決または問題を軽減する事を目的に付属アプリをご提供しています。

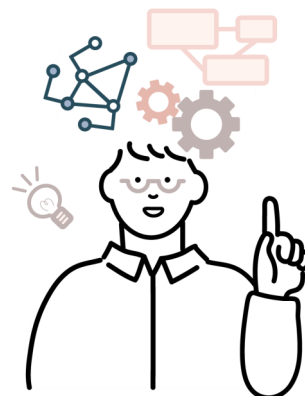
### 特定の操作を禁止したい

禁止設定は幾つかの方法が用意されています。例えば、PDF生成を禁止したい場合は以下の方法があります。

1. PDFのセキュリティ設定で該当PDFファイルに印刷禁止を設定する。AcrobatProが必要
2. USBメモリの印刷禁止を設定する。ただし、USB利用中は全ての印刷が抑制されます。
3. 印刷機能がない付属のClickView使う。保存フォルダは見えなくする。(推奨)
4. USBメモリの別名禁止機能でPDF生成を禁止する。

印刷を許可してPDF生成のみを禁止する場合は、上記の4を設定します。

USBの禁止機能は他のパソコン操作も影響を受ける為、操作の影響が少ない上記の1又は3を推奨しています。





## 諸問題の解決 USB内臓の専用アプリの利用例

コンテンツ種類別の推奨アプリ  
付属の推奨アプリを使う事によってUSBメモリのトラブルを軽減する効果があります

### よくあるトラブル

#### USBの取り外しができない

利用していたアプリの終了がされずにUSB利用中でロックされ安全な取り外しがキャンセルされる

#### 特定のアプリで視聴できない

USBの機能では許可されていないアプリのUSBアクセスを禁止しています。内臓ソフトは許可ソフトの設定に関係なくUSBアクセスが可能です。利用者によっては特定のビューワーソフトがセットアップされている事があり、USBの設定によっては視聴ができない場合があります。

#### PDFが表示できない

Windows 10/11 標準ではPDFビューワーとしてMicrosoft Edgeが設定されています。EdgeでUSBにアクセスすると安全な取り外しができなくなる事やクラウド保存などでコピーされる危険性があり推奨していません。また、Acrobatは画面が終了しても約2分間USBアクセスが続く為、安全な取り外しがキャンセルされます。諸問題を解決しているUSB内臓のクリックビューでの表示を推奨しています。

### PDFはクリックビュー利用を推奨

PDFを配布する場合は、トラブル軽減の為にClickView（クリックビュー）の利用が便利です。

- ・印刷メニューがないのでPDFからPDF生成をされない
- ・起動が早い
- ・許可ソフトの設定が不要

### 動画はクリックビュー利用を推奨

動画を配布する場合は、各パソコンで異なった動画プレイヤーが使われている可能性があります。USBの設定で許可されていないソフト利用はできません。クリックビューは許可ソフトの設定に関わらず動画視聴ができます。動画の倍速や低速再生も可能です。

### アプリ配布はランチャーを推奨

アプリ配布は、ハイパーコンテンツガードを利用して下さい。アプリをフォルダに入れてUSBへ保存します。フォルダを見えなくするフォルダ保護機能と内臓のランチャーソフトでアプリフォルダを利用者に見えなくする事ができます。コンテンツをシンプルな構成にして保護も強くなります。ランチャーの最新版ダウンロード  
<https://www.abroad-sys.com/USB/launcher.zip>

USBバージョンによってはTOOLフォルダに付属されています。

### 複数のファイル形式がある場合

複数のファイル形式やファイル数が多い場合は、ClickView（クリックビュー）を推奨しています。自動でメニューが作られますが手動設定のメニュー作成も可能です。PDFやMP4/MP3/Jpeg/HTMLなどはクリックビューの内臓ビューワーで表示します。PPTX（パワーポイント）など他のファイル形式はPC

### フォルダを見せなく

Hyper Contents GuardとHyper Plusには指定フォルダを見せなくするフォルダ保護設定ができます。（Data Contents Guardにフォルダ保護機能はありません）

フォルダを見せなくする事で保護が強化できます。非表示フォルダ内のファイルを起動するにはランチャーソフトまたはクリックビューの手動設定が必要です。

### フォルダ保護

- ・利用者が非表示フォルダの中のファイルを選択できません。
- ・パソコンの表示設定に関わりなく指定フォルダを非表示にします。
- ・USBに入っているファイル形式の別名保存禁止という機能があります。フォルダ保護設定されたフォルダにあるファイル形式は除外されます。
- ・画面に表示されませんがフォルダは存在していますので各アプリで絶対パスでのアクセスは可能です。

※フォルダを見えなくする方法は、他にフォルダ属性にhideフラグ、Systemフラグを設定する方法があります。ただし、この方法はパソコンの表示設定で表示する方法があります。併用もできますので用途によって使い分けが必要です。

ランチャーとは・・・深いフォルダ階層のソフトウェアを起動する為のショートカットキーなどに使われるアプリです。

Windowsのショートカットは固定のドライブ名が必要ですがパソコンによってドライブ名が変わるUSBメモリでは使えません。

- Data Contents Guard ○
- Hyper Contents Guard ○
- Hyper Plus ○

## USB内臓ビューワーソフト クリックビュー

全てのPCで再生できるUSB専用のPDF/動画ビューワー  
パソコンにより再生できないトラブルを解消します。

### USB再生に特化したクリックビューの便利な機能

1. 自動メニュー作成：起動すると自動でメニューを作成します。
2. 安全な取り外しボタン：メニュー又は[▼]ボタンで終了と同時に安全な取り外しが実行されます。
3. PDFでは印刷や別名保存の機能がありません。印刷許可でもPDF生成ができません。
4. どのパソコンでも必ずPDF表示や動画再生ができます。ご利用パソコンによって動画やPDFを表示できないケースを防ぐ事ができます。
5. 動画の倍速再生/低速再生をサポート
6. EXEメーカー：PDFや動画を疑似アプリ化する機能

### クリックビュー ClickView

USB内臓のコンテンツビューワーソフト



ClickView.exe

クリックビューで  
再生できるファイル形式

- PDF
- MP4/WMV
- MP3
- JPEG/PNG

場所

- 保護領域/ルート

Viewer			
Menu			
No.	Category	Title	Type
1	Document	D0002021137_00000_V_000	Movie
2	Document	コピーガードUSBメモリ7簡易説明 (要削除)	Document
3	Document	付属ソフトについて (要削除)	Document
4	illustration1	illustration1000	Image
5	illustration1	illustration1001	Image
6	illustration1	illustration1002	Image
7	illustration1	illustration1003	Image
8	illustration1	illustration1004	Image
9	illustration1	illustration1005	Image
10	illustration1	illustration1006	Image
11	illustration1	illustration1007	Image
12	illustration1	illustration1008	Image
13	illustration1	illustration1009	Image

5

USBメモリ内のコンテンツを表示するときには、**トラブル防止や安全性の観点からクリックビューでの表示を推奨しています。**

コピーガードUSBは許可ソフトウェア設定で事前にUSBへアクセスできるソフトの登録が必要です。クリックビューは内臓ビューワーは、設定をしなくてもコンテンツの表示ができます。

#### PDFのトラブル防止に

USBメモリ内のPDFをAcrobatやMicrosoft Edgeで参照するとトラブル・・・

USBメモリ内のPDFをAcrobatやMicrosoft Edgeで参照した場合、USBの取り外しができなくなる事があります。これは、画面を終了しても一定時間USBを開放せず利用中で取り外しができなくなる為です。また、PDFは印刷を許可するとPDF生成ができます。ブラウザの利用を許可するとクラウド転送の可能性も考えられます。クリックビューはUSBメモリ専用のビューワーソフトなので、こういったトラブルを防ぐ事ができます。

Data Contents Guard	○
Hyper Contents Guard	○
Hyper Plus	○

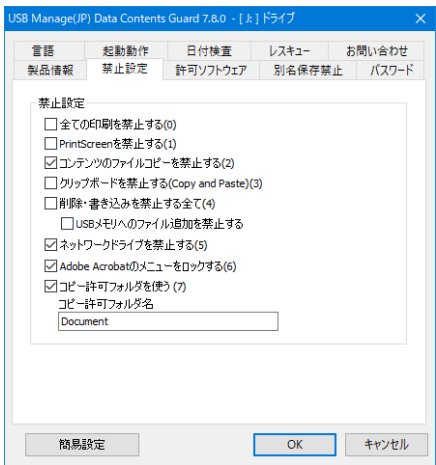
# USB保護機能を設定する

コピー禁止設定、変更、解除



## 管理ソフトUSBマネージ    UsbManage.exe

USBの保護機能を設定する。利用するには設定されている管理パスワードが必須です。初期値” admin”



管理ソフトはUSBに付属していません。保守ソフトUsbSettingのメニューよりダウンロードします。管理パスワードを設定するとダウンロードメニューは非表示になります。

<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManageV7.7.zip>

- ・ファイルコピー禁止、印刷禁止、画面キャプチャー禁止、削除禁止など各種設定を行います。
- ・管理ソフトは、コピーガードが有効になっていると設定ができません。非保護領域を表示した状態（UsbStartが見える状態）で設定を行います。USBにUsbStartが無い場合は、一度USBを取り外して再挿入する。又はTOOLフォルダにあるUsbBackを実行します。
- ・管理ソフトは各製品共通です。設定する本体USBの製品種類によって設定できる項目が異なります。

## 管理ソフトの便利機能

- ・2本差しの状態で設定やシステムファイルを転送する機能（同じ設定にする／バージョン統一）
- ・お問い合わせタブ    USBの設定情報を提出し、設定間違いのチェックやUSBのサポートを受ける
- ・言語設定機能（英語、日本語、中国語、韓国語、自動表示）
- ・製品情報タブ    自社の名前や保存されているコンテンツ名を登録・表示させる。
- ・自動更新の有効／無効切り替え
- ・簡易設定    設定ウィザードの表示
- ・ロストパスワード機能    登録されているメールアドレスにパスワードをお知らせ
- ・USBの破損検査    CHKDSK(チェックディスク)の実行
- ・ファイルコピー禁止など各種保護設定

## 使い方

- ・設定するUSBメモリを先に挿入してデスクトップなどからUsbManageを起動します。設定されている管理パスワードを入力して設定画面を表示させます。
- ・自動起動UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは利用できません。（UsbQuickStartを自動でアンインストールします。必要な場合は再セットアップして下さい。）

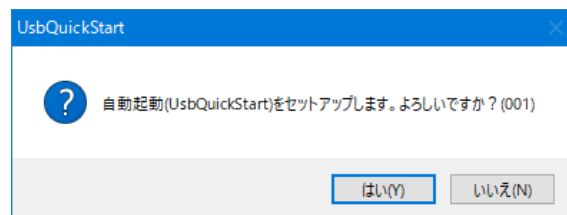
## 制限アカウントの利用／USBの自動起動

.....



### USBクイックスタート UsbQuickStart

①USBの自動起動 ②制限アカウントでの利用



#### メリット

- USBを挿入すると自動でUsbStartを実行します。
  - 本USBメモリは管理者実行権限が必要です。UsbQuickStartをセットアップすると制限アカウントで利用できるようになります。
- ※UsbQuickStartをセットアップする場合は、制限アカウントではできません。初回のみ管理者権限で実行して下さい。

#### 制限アカウント

新規ソフトンのセットアップや削除が制限されています。USB付属のUsbStartは管理者実行権限が必要です。UsbQuickStartを管理者実行権でセットアップされている場合、UsbStartの実行が許可されます。

7

#### UsbQuickStartのアンインストール

UsbQuickStartはPCにセットアップされるソフトです。利用する場合は、個々のPCにセットアップします。ダブルクリックでUsbQuickStartを実行するとセットアップされます。  
もう一度実行するとアンインストールします。

ネットワークからセットアップする場合でメッセージ不要にする場合は/Nオプションを付けて起動します。  
UsbQuickStart.exe /N

#### UsbQuickStartの注意

USBを設定するPCにはUsbQuickStartを設定しないで下さい。  
管理ソフトUsbManangeは自動起動が設定されていると利用できません。UsbQuickStartがセットアップされているPCで管理ソフトUsbManangeを起動するとUsbQuickStartが自動でアンインストールされます。  
※必要な場合は再度UsbQuickStartをセットアップして下さい。

## コピーガードの解除コード設定

※このソフトはHyperPlusのみ付属しています。



### USBクイックスタート\_Admin

#### UsbQuickStart\_Admin.exe

①USBの自動起動 ②制限アカウントでの利用 ③解除コードの設定

#### メリット

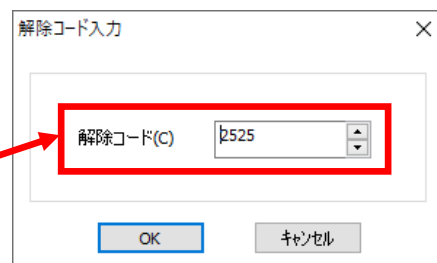
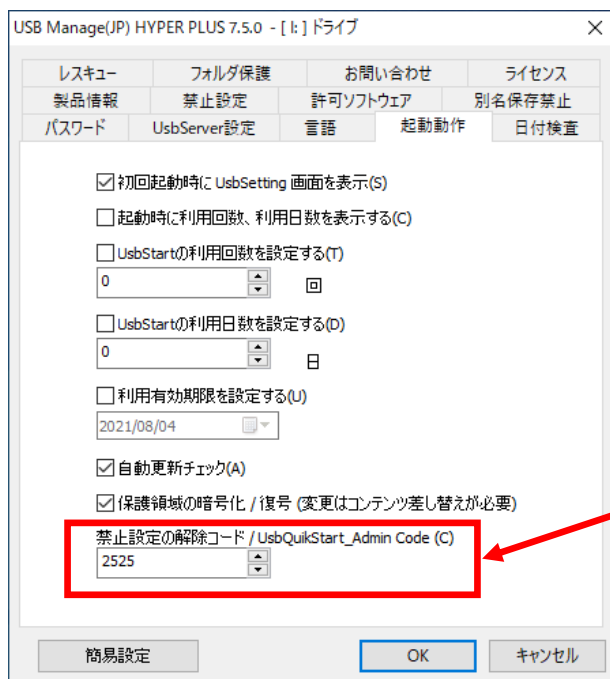
- ・PCにコピーガードを解除する解除コードを設定できます。
- 他の機能はUsbQuickStart.exeと同じです。

解除コードとは

HyperPlusには、コピーガードを解除できるコードを設定できます。  
PC側に設定されている解除コードとUSBに設定される解除コードが一致していると各種設定されているコピーガードが解除できます。

場所

- ・非保護領域/setupフォルダ



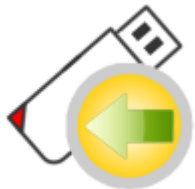
解除コードはHyper Plusのみ設定できます。



Data Contents Guard	○
Hyper Contents Guard	○
Hyper Plus	○

# 保護→非保護

.....



UsbBack.exe

保護領域／TOOLフォルダ

## USBバック UsbBack.exe

保護領域から非保護領域へ戻る  
USB設定に便利なツール

### メリット

USBの取り外しと再挿入を連続で行います。  
USBの保護設定を行う場合、非保護と保護を何度も表示させる必要があります。このときに使うと便利です。



UsbBack.exe

保護領域／ルート（非表示設定）

### 裏ワザ

UsbBackは管理者がUSB設定時に使うソフトです。  
利用者は、使わないのでUsbBackを非表示で入れてあります。  
パソコンの表示設定を変更すると管理者だけ表示されるようになります。  
（PDFマニュアル「非表示非表示フォルダを表示する」にある“エクスプローラ表示オプションの変更”を参照して下さい）

## UsbBackの機能

ダブルクリックで起動するとUSBの安全な取り外しと再挿入をソフト的に行っています。  
管理ソフトUsbManageで設定を行う場合、コピーガードが有効になっていると変更ができません。このため、非保護に戻って設定する必要があります。保護領域を表示している場合は、UsbBackを使うか、USBの安全な取り外しを行い、USBを再挿入する必要があります。

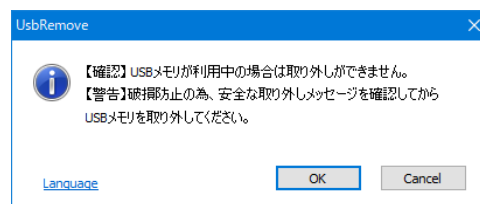
## USBの安全な取り外し



### UsbRemove.exe

#### Usb安全な取り外し.exe

Windowsの安全な取り外しを実行します。  
USBを選択し右クリック→”取り出し”と同じです。



#### メリット

- USBは安全な取り外し操作が必要です。この事を明示する為に付属しています。
- 単体で言語切り替えができます。
- USBの破損は書き込み時に起こります。画面で書き込みが終わっても実際に終了する際に1秒程度のタイムラグがあります。メッセージを表示して、この時間を稼いでいます。

#### 場所

- 保護領域/TOOLフォルダ

### USBが取り外せない

USBが何かのソフトで利用中の場合は、USBの安全な取り外しができません。

また、USBを認識させた直後はセキュリティソフトやWindowsシステムでUSBアクセスが行われるため、USBの安全な取り外しができません。この場合は、表示される[継続]ボタンをクリックする事で取り外しができます。

# ユーザーパスワードの変更

.....



## ユーザーパスワード変更 UsbPw.exe

USBにユーザーパスワードを設定されている場合は、UsbPwで変更ができます。ユーザーパスワードの変更させたくない場合はUsbPwを削除して下さい。

ユーザーパスワード設定

新しいパスワードを設定して下さい。

パスワード(P)

再入力(C)

☐ 表示(V)

パスワードを忘れた時のためにヒントを設定して下さい。

ヒント(H)

OK

キャンセル

### メリット

- ・利用者がユーザーパスワードを変更する事ができます。
- ・ユーザーパスワードは管理パスワードでも許可されます。

### 場所

- ・保護領域／TOOLフォルダ

### ユーザーパスワードを忘れた場合

UsbStartでパスワードが画面が表示された場合、管理パスワードでも許可されます。また、管理ソフトUsbManageでも再設定ができます。

## ユーザーパスワードを表示させない

ユーザーパスワードはUsbStartを実行したときに表示されるパスワードです。正しいパスワードを入力しなければコンテンツ表示はできません。ユーザーパスワードを表示させたくない場合は、ユーザーパスワードを削除して下さい。

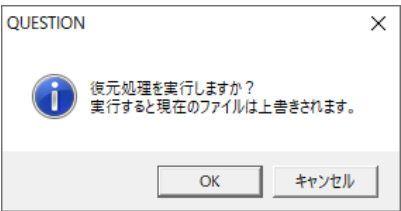
# コンテンツのリセット

.....



## 保護領域復元 UsbReset.exe

保護領域のバックアップと復元



### 特長

- ・実行すると復元モードになります。
- [キャンセル]ボタンでバックアップモード
- ・保護領域をバックアップします
- ・USBメモリ内にバックアップを作るので空き容量が必要です。

### 場所

- ・保護領域／TOOLフォルダ

## 完全なバックアップ

完全なバックアップはUsbSettingで利用者が行う必要があります。  
UsbResetはUSBメモリ内にバックアップを作るのでUSBの全体（インデックス領域）が破損した場合は復元ができません。また、UsbResetは空き容量が十分に無い場合は利用できません。

UsbResetは保護領域内に圧縮バックアップします。  
コンテンツがMP4など既に圧縮されている形式の場合は、圧縮率の効率が悪いので空き容量にご注意下さい。  
コンテンツが4GBある場合はUSBメモリ容量は8GB以上が必要です。

Data Contents Guard	
Hyper Contents Guard	○
Hyper Plus	○

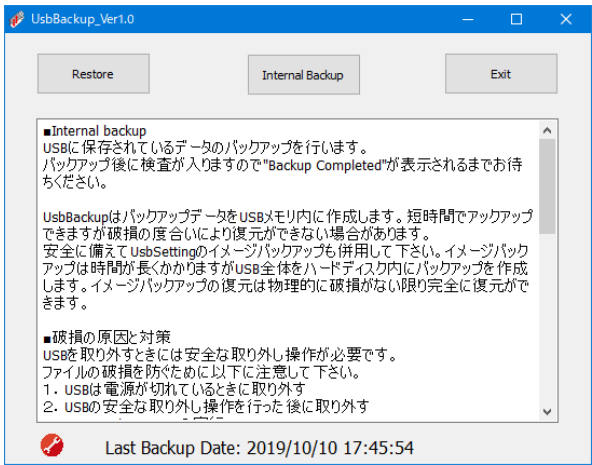
# 利用者簡易バックアップ

.....



## 保護領域復元 UsbBackup.exe

保護領域のバックアップと復元  
利用者が使う簡易バックアップ機能です。  
UsbResetと同じですがバックアップファイルが別に管理されます。



- 特長
- 実行すると復元モードになります。
  - 保護領域をバックアップします
  - USBメモリ内にバックアップを作るので空き容量が必要です。

- 場所
- 保護領域／TOOLフォルダ

## 完全なバックアップ

完全なバックアップはUsbSettingで利用者が行う必要があります。  
UsbResetはUSBメモリ内にバックアップを作るのでUSBの全体（インデックス領域）が破損した場合は復元ができません。また、UsbResetは空き容量が十分に無い場合は利用ができません。

# 一時的にファイルを隠す

※このソフトはHyperPlusのみ付属しています。

## USBステルス    **UsbStealth.exe**

保存されているファイルを一時的に見えなくする。



画面スイッチ  
□Mac&UNIX Stealthは、保護領域では利用しません。非保護で利用するとMacで有効な非表示化属性が設定されます。ON/OFFどちらでも結構です。

□Encryption(暗号化)  
有効にするとファイル名を暗号化します。保護が強化されますので有効にご利用下さい。



USBの貸し出し時に、保存されているファイルを見せたくない場合に便利です。

### 特長

- ファイルの表示属性を変更してファイルを見えなくします。
  - ファイル名を暗号化をする事ができます。
- ファイル本体を変更しないので動作が高速です。拡張子も暗号化されますのでファイル名で判断ができません。
- ファイルを見えなくした後でUsbStealthを削除するとより強固に保護ができます。UsbStealthは事前にバックアップして下さい。

### 場所

- 保護領域／ルート

- Data Contents Guard ○
- Hyper Contents Guard ○
- Hyper Plus ○

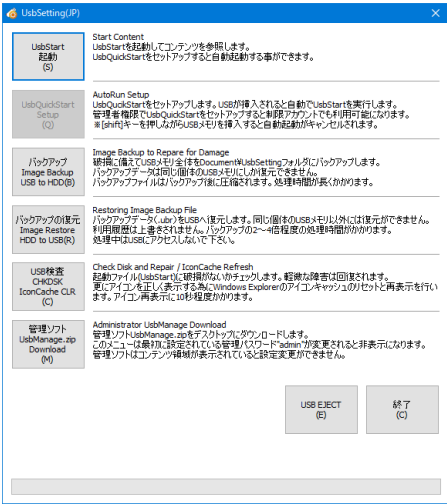
# バックアップ・管理ソフトのダウンロード

.....



UsbStart→左側[SETTING]ボタンで起動  
または  
Setup/UsbSetting.exeを起動する。

## USB保守ソフト UsbSetting.exe



以下の機能が利用できます。

- ・自動起動の設定
- ・バックアップ
- ・バックアップの復元
- ・USB破損検査
- ・管理ソフトUsbManageダウンロード

場所

- ・非保護領域／setupフォルダ

## 管理ソフトUsbManage

- ・UsbManageはUSBに付属しません。保守ソフトUsbSettingのメニューよりダウンロードします。
- ・自動起動(UsbQuickStart)がセットアップされているPCでは実行ができません。  
(UsbQuickStartが設定されている場合は自動でアンインストールされます)
- ・管理パスワードが設定されるとダウンロードメニューが非表示になります。
- ・ロストパスワード機能：予め設定されているメールアドレスに管理パスワードをお知らせする機能があります。
- ・USBメモリがバージョンアップされた場合、対応する管理ソフトバージョンが必要です。古いバージョンの管理ソフトでも設定できますが新規に追加された項目が表示されていません。

Data Contents Guard  
Hyper Contents Guard ○  
Hyper Plus ○

# ランチャーソフト

※このソフトはフォルダ保護設定ができるHyper Contents Guard、HyperPlusで利用可能です。

Download : <https://www.abroad-sys.com/USB/launcher.zip>

Data Contents Guardでも動作しますがフォルダを見えなくするフォルダ保護機能がありません。  
Ver7.8以前のメモリバージョンには付属されていません。ご利用の場合はダウンロードして下さい。

## ランチャーとは

深いフォルダ階層のソフトウェアを起動する為のショートカットキーなどに使われるアプリです。Windowsのショートカットは固定のドライブ名が必要ですがパソコンによってドライブ名が変わるUSBメモリでは使えません。

## 見えないフォルダ設定

ハイパーコンテンツガード、ハイパープレスなど製品名に“ハイパー”がある製品は、設定で指定フォルダを見えなくする事ができます。  
この場合、中のコンテンツを起動または表示する為にはランチャーソフトが必要です。

**ランチャーソフトを使うとコンテンツを全て見せなくする設定ができます。** シンプルなファイル構成と保護が強化されます。フォルダを見えなくするには、フォルダ保護機能と併用します。

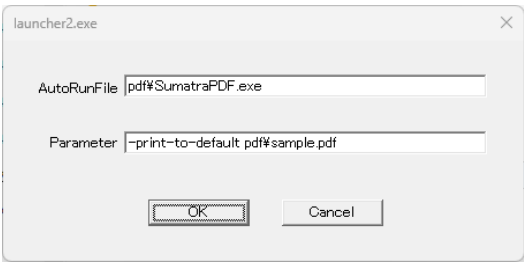
## ランチャー launcher.exe

非表示に設定されているフォルダ（見えないフォルダ）を設定した場合、非表示フォルダにあるアプリを起動します。フォルダを見えなくする事でファイルコピーを禁止せずにコンテンツの保護をする事ができます。

USBのフォルダ機能を設定すると利用者には直接関係のないフォルダやファイルを見えなくシンプルにする事ができます。しかし、利用者がファイルを選択して起動する事ができないのでランチャーソフトを使いアプリを起動できるようにします。

## 使い方

- ① launcher.exeのファイル名を変更します。  
ランチャー定義は変更されたファイル名単位で設定されます。ランチャーソフトの名前を変更した場合は再度設定が必要です。
- ② 設定  
launcher.exeをシフトキーを押しながらダブルクリックで起動します。  
設定画面になりますので必要事項を設定します。



AutoRunFile : 起動するアプリを設定します。  
Parameter : アプリに渡すパラメタ情報を設定します。

## 高度な設定

パラメタファイルを直接修正する事ができます。  
この場合、シフトキーで表示される編集モードを禁止にする事もできます。

次ページ参照



# ランチャーソフト

※このソフトはフォルダ保護設定ができるHyper Contents Guard、HyperPlusで利用可能です。

ランチャーソフトのアイコンを変更する  
利用規約でアイコン変更の禁止していま  
せん。

launcher.exeの表示アイコンを変更する  
場合は、launcher.ソフト自体にその機能  
はありません。アイコン変更ができるリ  
ソース変更ソフトなどが必要です。

## パラメタファイルを直接編集する

ランチャーソフトの起動パラメタは “.cfg¥setting.cfg” になります。  
setting.cfgはテキストファイルなのでメモ帳やエディタで直接修正する  
事もできます。設定ファイル保存されるフォルダは” .cfg” フォルダです  
が新規で設定された場合、表示されるので最後に見えなくなる設定を推  
奨しています。

パラメタファイルの場所  
パラメタファイルは起動するランチャーと同じフォルダの” .cfg” フォル  
ダより起動します。新規で設定を行った場合は “.cfg¥setting.cfg” が生  
成されます。

フォルダ¥.cfg¥setting.cfg （非表示）  
フォルダ¥メニュー.exe （表示）

setting.cfg

[Set]

edit\_permission=OFF ON :シフト起動の編集許可  
OFF :シフト起動の編集を禁

[launcher.exe]

File=¥フォルダ¥Program.exe

Parameter=¥フォルダ¥file.txt

[メニュー.exe]

File=pdf¥SumatraPDF.exe

Parameter=-print-to-default pdf¥sample.pdf

実行するランチャーファイル名  
ごとに定義する

ランチャーパラメタを直接修正するメリット

- 複数のUSBを設定する場合、ファイルをコピーするだけで定義ができる。
- 複数のランチャーを作成する場合に設定が早く便利
- 利用者がランチャー定義の編集をできなくできる。

※複数本数に設定が必要な場合は、設定済の状態出荷するサービスが便利です。

# 非表示フォルダの作り方

.....

■非表示ファイルを見える表示設定  
各PDFマニュアルの説明を参照して下さい  
<https://www.abroad-sys.com/USB/HC7.8.pdf>  
P.72 非表示フォルダを表示する

●非表示 (hide)属性  
ファイルやフォルダには表示状態の属性を定義するフ  
ラグがあります。一般的には非表示 (hide)属性をONIに  
しますが、パソコンの設定によっては見えてしまうので”  
System属性もONIにします。System属性はWindowsの  
システムファイルで使われている属性です。  
非表示 (hide)属性は簡単に設定できますが、System属  
性は通常のエクスプローラの操作ではできないので属  
性変更ソフトで定義します。

●システム属性で見えなくする  
Windows標準のファイル属性変更ソフトはATTRIBコマ  
ンドになります。  
<https://www.abroad-sys.com/USB/HC7.8.pdf>  
P.102 User Application  
※システム属性を設定する方法が不明の場合は、既に  
定義されている”.cfg”を使う。または support@abroad-  
sys.comにお問合せ下さい。

非表示フォルダ  
利用者に直接関係のないファイルは非表示のフォルダに入れます。  
見えないフォルダの作り方は、USBの「フォルダ保護」機能を使うか、  
フォルダにWindowsの非表示属性を設定します。

ランチャーを定義する場合の”.cfg” フォルダは、Windowsの非表示属  
性定義が運用性が高く簡単です。

●Windowsの表示属性を定義する方法  
各PDFマニュアルの説明を参照して下さい。(左記参照)

●フォルダ保護を使う方法  
管理ソフトUsbManageの「フォルダ保護」を使うとフォルダが非表示  
になります。ただし、追加や変更する場合、毎回フォルダ保護の設定を  
解除する必要がありますメンテナンス性が悪くなります。  
USBのフォルダ保護設定は、パソコンの表示設定の状態に関わらずに非  
表示になります。

Winodwsの表示属性との違いは、**表示属性**はファイルとフォルダ両方に  
適用できるがパソコンの表示設定によっては見えてしまう事  
USBの**フォルダ保護設定**は、フォルダに設定できるが単体のファイルには  
適用ができない事、USBの独自機能なのでパソコンの表示設定に関わら  
ず表示されない等の違いがあります。

ファイル属性でフォルダを見えなくする場合の注意  
・先にパソコンの表示設定を変更して、非表示ファイル  
を見えるようにして下さい。  
・ファイル属性は非表示属性 (hide属性) とシステム属性の  
2つを設定します。  
※USBのPDFマニュアルに記載があります。